

令和2年 神奈川県議会 産業労働常任委員会にて質疑いたしました。

小野寺

私からは、令和2年度一般会計当初予算、歳出の主な事業の中から、8款商工費2項工業費、ロボット実用化促進費等について、何点か質疑します。私どもの会派では、それこそ松沢前知事の時代からロボットの普及に関して様々働きかけをしてまいりました。ですから、もう10年以上になりますが、当初はロボットといってもぴんときてくれる人が少なかったことを覚えています。また、平成25年2月に、さがみロボット産業特区が国の地域活性化総合特区に認定されたときは、たまたま視察で仙台にいましたが、皆で祝杯を上げたという思い出もあります。その特区が、ライフイノベーション分野で、この10の地域活性化総合特区の中で1位という評価を受けたこと、そして、今回の報告資料の中にも様々なロボットの開発が書かれていますし、また、特区のホームページにもいろいろなロボットが紹介されているが、実感として浸透しているのかということになると、その辺りの実感が湧いてこないという実情もあります。

そういったことについて何点かお聞きしますが、今申し上げたように、特区によって様々な取組が進められていると承知をしていますが、この生活支援ロボットについて、県としてはどのように評価しているのか、そこをお聞かせください。

産業振興課長

まず、ロボットの普及を進めるためですが、まずはロボットの商品化、そして、商品化に不可欠な実証実験が重要です。それらの件数については、さがみロボット産業特区の第1期計画から数値目標に掲げております。また、実際にそうした商品が県民の皆様の手が届くことが大切ですので、第2期計画からは、生活支援ロボットの導入施設数も数値目標に掲げております。そうした数値目標の達成状況ですが、令和2年2月1日現在の実績では、いずれも数値目標を達成することができました。そうしたことから、ロボットの普及についてはおおむね順調に進んでいるものと受け止めておりますが、今後もそういった実感をしていただけるような、より多くの県民の皆様がロボットを手にすることができるよう、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

小野寺

数値目標はとりあえず達成をしているという話でしたが、そもそも無理な数字ということは最初から目標に立てないので、そここのところ、より高い目標を設定して、これからも取り組んでいただければと思います。

当然、生活支援ロボットの普及・定着では、様々な事業者の工夫が必要だと思っています。今回の報告資料の中に、生活支援ロボット普及・定着を促進という項目があって、その中で、ロボット導入支援事業についても記述がありますが、この令和元年度の実績について、補助件数と補助金額をお伺いします。

また、さらなる普及・定着に向けた工夫などがあればお聞かせください。

産業振興課長

ロボット導入支援事業の補助件数は27件、補助台数は113台です。また、これに対する補助金の交付決定額は546万9,000円です。今後の工夫ですが、予算総額を抑えつつ、できるだけ多くの方に生活支援ロボットを導入していただくため、1申請当たりの補助対象台数の上限設定や、1台当たりの補助金上限額の引下げを考えています。

小野寺

それで、令和2年度が505万円という予算になっていることで理解してよろしいでしょうか。さがみロボット産業特区の取組を活用して商品化されたロボットの導入にかかる経費ということで、3分の1の補助、上限200万円で、来年度は505万円ということで理解してよろしいですか。

産業振興課長

この補助金額ですが、若干の減額はしていますが、3分の1補助、また上限200万円といった中での上限の引下げも検討してまいりたい。それによって、できるだけ多くの方にロボットを支持していただける工夫をしてまいりたいと考えております。

小野寺

広く浅くということで理解しておきます。

次に、ロボット体験キャラバン、モニター制度がありますが、これは今後どのように取り組んでいくのか。そのお考えもお聞きします。

産業振興課長

ロボット体験キャラバンやモニター制度の取組ですが、現在、ロボットを体験し、知っていただく。そして、使い勝手など御意見をいただき、商品の改良につなげていくといったことを進めております。そうした体験者の声について、今後も開発事業者にフィードバックし、商品改良につなげるとともに、さらに介護施設でのロボット体験キャラバンでは、体験後に意見交換の場を設けることや、その後の導入に向けたフォローを行うなど、キャラバンをより効果的なものにしていきたいと考えております。

また、ロボット導入のさらなる促進を図るため、介護施設のほか地域コミュニティなどでのキャラバンの実施を通じ、在宅利用者など幅広いユーザーに向けて、導入を働きかけてまいりたいと考えております。

小野寺

試していただいて、その評価をしっかりとフィードバックしていくことは、大変大事なことだと思います。これは頂いた報告資料だと、モニター制度は令和元年度2月1日までに21件、ロボット体験キャラバンは同じく2月1日までに53件という実績が示されています。例えば、体験キャラバンはその後の導入にどうつながっていくのか、その辺りの数字はつかんでいますか。今年度はまだ試してもらっている最中なので、まだ結果が出ていないことであれば、平成30年度も恐らく同じ事業を行っていると思うので、その辺りの実績値を教えてください。

産業振興課長

ロボット体験キャラバンですが、実際にその体験キャラバンの結果として、すぐ導入に至ったという事例については、そういう報告はいただいております。恐らく、実際に体験をされての課題や問題点をフィードバックしつつ、またあるいは、今後どういう形で利用できるかといった検討してという過程を経ていくものと考えております。

小野寺

報告資料を読むと、導入していただくことを前提にという形で書かれていたので、その辺りはどうなのかとあったので、これからもできるだけ具体的な導入につながる運用をしていただければと思います。

次に、介護ロボットの普及については、福祉部門でも取り組んでいると思います。今回の事業についての説明でも、介護ロボット普及推進事業費が1億590万円という記載がありますが、たしか福祉子どもみらい局の事業だともお聞きしています。産業労働局は、介護施設等にロボットを持ち込んで、職員等に体験してもらおうという、また自由に体験できる施設を造るということですが、この辺りの連携がどのようになっているのか、お聞きします。

産業振興課長

福祉部門との連携ですが、現在、高齢福祉課では介護施設への介護ロボットの導入を図るため、ロボット導入の一部補助や、ロボットの活用現場を体験していただくための公開事業所の設置などを行っております。産業振興課では、こうした高齢福祉課の取組も企業向けのイベントなどで紹介しております。また、高齢福祉課でも、さがみロボット産業特区のロボット体験キャラバンやモニター制度の利用案内を介護事業者向けにメール配信したり、公開事業所の見学者にさがみロボット産業特区の取組案内のチラシを配付したりしています。さらに、高齢福祉課が主催する介護テクノロジー活用セミナーでも、さがみロボット産業特区発のロボットを提示し、紹介する予定です。今後も高齢福祉課と連携して、介護ロボットの効果的な普及に取り組んでまいりたいと考えております。

小野寺

確認ですが、このロボット普及・浸透推進事業費が754万円という数字が出ています。それと、介護ロボット普及推進事業費は福祉子どもみらい局の事業ですが、これは一体のものと考えて、連携しながらこの二つが一体となって事業として取り組んでいくことで考えてよろしいでしょうか。

産業振興課長

福祉部門においても、導入補助金を活用しております。福祉部門の導入補助金については、対象としては介護施設、介護ロボットというある意味限定の中で行っております。私どもの補助金については、介護ロボットも含めて広く対象としております。そういった中で、それぞれ補助金額、補助率、対象とするロボットが違いますので、事業者の皆様それぞれに使い分けて活用いただいております。ただ、広報についてはできるだけ一緒に、こういうメニューもありますということをお伝えしたいと思っています。

小野寺

今後、普及・定着の促進を図っていくためには、特定の施設の体験、モニタ

一利用などやり取りをさせていただいたことでもあります。広くさがみロボット産業特区の取組を発信していく必要もあると思っています。辻堂駅周辺での体験イベントを御報告いただいています。そのほかにもどのような情報発信に取り組んでいますか。

産業振興課長

情報発信の取組ですが、辻堂駅周辺でのイベントなどのほか、さがみロボット産業特区の特設ページやメールマガジンのように、さがみロボット産業特区の様々な支援制度やさがみロボット産業特区発のロボットなど、最新情報を発信しております。また、ロボットと共生する社会のイメージを持っていただくための動画も発信しております。従来から公開しておりますアニメ動画のほか、今年度は新たに実写版の動画を作成し、かなチャンTV等で公開をしております。さらに、さがみロボット産業特区で実証実験や商品化の事例がある場合には、さがみロボット産業特区の取組や成果として、都度記者発表をしております。こういう形で、様々な方法によって、さがみロボット産業特区を積極的にアピールしています。

小野寺

まずは自前のメディアでいろいろ広報している。あるいは、その都度記者発表をしていますが、メディア戦略を考えると、新聞、雑誌、テレビ、いろいろなメディアがあると思いますが、こういう事業ですから、ガイアの夜明けやワールドビジネスサテライト、テレビ東京の回し者ではありませんが、そういった経済番組もある。日経クロステックなどの様々な媒体もあります。そうしたメディアに対して、これまでどういう戦略を持って取り組まれて、これまでどのようなメディアで取り上げられてきたのか。その辺りの実績もお聞きします。

産業振興課長

メディアへの対応ですが、記者発表といった形を通じてメディアの皆様へ情報提供しております。今年度、メディアに掲載されたさがみロボット産業特区の取組ですが、テレビ、新聞、ネットメディアなど様々な媒体でさがみロボット産業特区の概要の紹介や、ロボットの実証実験の様子などが掲載されました。具体的な事例を申し上げますと、日刊工業新聞ではさがみロボット産業特区について年始特集が組まれたほか、江の島での自動運転バスや日本郵便と連携した階段昇降ロボットによる宅配の実証実験、大山の参道を歩行支援ロボットで上る実証実験など、複数のメディアに取材をいただき、取り上げていただきました。

小野寺

最後の質問ですが、さがみロボット産業特区の取組については、先ほどいろいろな動画を発信していることで、そういった一般の方々にアピールしていくことも大事だと思いますが、それに併せて、企業やアカデミアといった専門的な知見を持っている方々、ロボットの導入を具体的に検討している企業の方々に対する情報発信もすごく大事だと思います。その辺りについての御所見があればお伺いします。

産業振興課長

ロボットに関する関連企業、学識者、有識者等への情報の発信ですが、これ

までテクニカルショウヨコハマでさがみロボット産業特区の取組を、特区の参加企業から来場された企業の皆様、研究者の皆様へ取組を紹介していただいたり、また、K I S T E Cで中心に取り組んでいるロボット研究会でセミナーや交流会を通じて、特区の取組やロボットに関する情報を共有したりするなど、リーダー的企業の皆様に興味を持っていただけるような情報発信を行ってまいりました。

また、今後については、さらに企業が持つ技術情報などを収集し継続的に発信するほか、こうした情報を支援機関などに提供し、日常的なマッチングの場で活用していただくことなどによって、さがみロボット産業特区への参加につながるような情報発信を行ってまいりたいと考えております。また、導入を検討される介護事業者といったユーザーの方に対しては、関係団体を通じた事業案内やロボット体験キャラバンなどの実施などにより、特区の取組やロボットなどを紹介してまいりました。今後は、ロボット体験キャラバンで意見交換を行うなど、ロボットへの理解を一層深めていただける取組、また、地域コミュニティなどを通じた在宅利用者へのアプローチなども進めていきたいと考えております。

こうした取組によって、必要な方に的確な情報をお届けできるよう、丁寧な情報発信に努めてまいりたいと考えております。

小野寺

要望を申し上げますが、以前の神奈川県は自他共に認めるロボット先進県だったと思っています。内閣総理大臣の下でのロボット革命実現会議に、黒岩知事が自治体の長としてただ一人呼ばれたということもあります。ただ、今、ロボットに関しては全国、あるいは世界で同時進行とっていいぐらい開発が進んでおり、普及も進んでいて、またAIやIoTの進化も著しい中で、しっかりと技術的な面で優位に立つとともに、普及のスピード、広がりでもしっかりと優位に立っていくことが大事だと思いますので、そのための御努力を引き続きお願いをしたい。

また、広報については先ほどいろいろお答えいただきましたが、さがみロボット産業特区は人と金をどうやって引きつけていくかということも大きなテーマになりますので、ぜひこういうロボットを使ったらこういうイノベーションが起きたといった証言も含めて、そういった専門の方々を知りたいことを、イメージだけではなくて具体的な発信もしていただきたいと思っております。